

本大会のテーマ「いのちを受けとめる町づくり」その思いを、20年間の在宅ホスピスの経験と学びから語ります。

死に＜いのち＞をルビをふる時代、と米沢慧さんは指摘し、高齢化に伴う長い老年期（老揺期＝たゆたいき、と読む）をどのように過ごすか、どのように死と向かい合ったらいいのか、ということが課題となってきました。それは医療職だけの問題ではなく、我々が市民として一人一人に問われる問題です。

高齢化、認知症、がん末期のケアの課題などの問題だけでなく、少子化に伴う子どもたちの成長と教育の問題、さらに重度障がい児・者の地域ケアの課題なども取り上げます。

また、1980年代に始まったわが国のホスピス運動。40年近くの歩みを振り返りながら、「わが国のホスピスが忘れてきたもの」を拾い上げ、さらに世界へ目を向け、発信できるようなホスピス運動を構想したいと思います。